

説経節 ◆ 三代目 若松若太夫 (狭山市在住)
語り ◆ 古屋和子
作画 ◆ 白野ねず
編集 ◆ せん せい いん 銭政印
企画・制作 ◆ 上田 薫



2025年 9月 10日(水)

開場 13:00 開演 13:30 入場無料

会場 狭山市市民会館 小ホール

〒350-1305 埼玉県狭山市入間川2-33-1

受付開始 2025年8月16日(土) 9:00 から

- ◆ 狭山市市民会館1階事務所にて「入場券」を配布いたします。(全席自由)
- ◆ 電話での予約はできません。
- ◆ 定員になり次第「入場券」の配布は終了いたします。
- ◆ 問合せ：狭山市市民会館 04-2953-9101

主催：狭山市 共催：日本大学芸術学部・狭山市市民会館

本事業は、日本学術振興会科学研究費助成事業・課題番号23K00201により実施いたします。

絵解きで聴く説経節 小栗判官物語

◆大画面に映写されたイラストを観ながら説経節を楽しもう

説経節 三代目若松若太夫

一九八九年、先代若松若太夫の公演を聴き、感銘を受け入門。一九九八年に三代目若松若太夫を襲名。二〇〇〇年、東京都指定無形文化財（芸能）保持者、板橋区登録無形文化財説経浄瑠璃保持者に認定される。二〇〇二年、韓国の「第二回全州世界ソリ祝祭」に出演。二〇〇四年より「若松若太夫独演会」を板橋区郷土芸能伝承館で開催。また同年には、初代若松若太夫SPレコード復刻CDを自主制作する。二〇〇七年、埼玉県文化ともしび賞を受賞。二〇一二年、第一回東京「無形文化」祭「語る」一節の競演に出演。第五十六回関東ブロック民俗芸能大会（二〇一四年）では車人形西川古柳座と共演し、埼玉県内の竹間沢車人形、白久串人形の地語りとしても活躍している。その他、講座等の催しもの、寺院、大学、資料館、博物館等の依頼に応じている。



語り 古屋和子

早稲田小劇場を経て、一九七八年より水上勉「越前竹人形の会」でひとり語りに取り組む。一九九〇年までは横浜ボートシアターに所属しつつ、観世栄夫に師事し近松門左衛門の世話浄瑠璃や「高野聖」を語る。一九九一年から北米各地の大学でワークショップを行い、ストーリーテリング・フェスに参加し、北米先住民との交流を始める。二〇〇〇年からは国内のトヨタ・ストーリーテリング・フェスの芸術監督を務める。平家・説経・近松などの古典、鏡花・中島敦等の近代古典から童話まで幅広いレパートリーを持つ、ひとり語り・ストーリーテラーのスペシャリスト。

説経節 小栗判官 あらすじ

深泥池の大蛇の化身と交わった小栗殿は、帝の逆鱗に触れて常陸の国小栗の里に流されてしまう。その地で高貴の武将とかけずかれていた小栗殿は、相模国の横山殿の娘照手姫が絶世の美女と聞いて婿入りするが、その強引な振る舞いが仇となり、家臣もろとも毒殺され、また照手姫も牢奥に入れられたまま河にながされてしまう。冥界に下った小栗主従であつたが、家臣たちの忠義のとりなしで、小栗殿だけが地上に返されることになる。しかし、その姿は餓鬼阿弥という哀れな姿。藤沢の遊行上人に助けられて餓鬼阿弥に乗せられた小栗殿は、元の姿に蘇生させるために熊野湯峯の薬湯まで引かれてゆくことになるが、その途上で運命的な出会いが待っていたのであつた。



作画 白野ねず

日本大学芸術学部文芸学科卒

解説 説経節とは

説経節は、寺院での講説、すなわち説教から発して、民衆の興味をひくために説話的な物語を取り入れた語りだが、やがて大道芸能化したものです。説経節の代表的なお話「小栗判官」「山椒太夫」などが、神仏の由来を説く物語であるように、社寺縁起的な要素を残していることが、説経節の物語としての特徴と言えます。また音楽的な要素としては、その初期には極めて素朴な楽器、鉦やささら、錫杖などの拍子に合わせて七五調の哀愁に満ちた曲調で歌われた段階から出発し、江戸時代の始め頃までに三味線が用いられ、より流麗哀切なる調で語られるようになりました。その後、当時流行の義太夫節などの影響を受けながらも、江戸時代中期以降に説経浄瑠璃と呼ばれる独特のスタイルが確立して今日に至っています。